2024年3月期 第1四半期 決算説明資料

株式会社ゼネラル・オイスター

（3224）

General Oyster

2023年8月15日

1. 2024年3月期 第1四半期 決算 トピックス

2024年3月期 第1四半期 決算ハイライト

General Oyster

1 第1四半期の最終利益については黒字を確保

売上高は835万円と、前年から増収となり、営業損失も4百万円と、損失幅縮小。
この結果、最終利益（親会社株主に帰属する四半期純利益）は１百万円の黒字を確保。

2 主力事業の店舗事業、卸売事業が増収増益で着実に成長

主力事業の店舗事業と卸売事業が、前年対比＋22.6%と＋48.4%のセグメント利益となり、着実に成長。
一方、加工事業は受託事業の主力のホタテ加工が、ホタテの価格上昇により、回転すしチェーン向けの受注が大幅に減少し、セグメント損失が21百万円となった。

3 世界初 ノロウイルスフリーの”あたらないカキ”を発表

海洋深層水を活用した牡蠣の完全陸上養殖（沖縄県久米島町）に世界で初めて成功。
ノロウイルスフリ―の“あたらないカキとして、『エイスシーオイスター2.0』を発表。

連結損益計算書概要

General Oyster

売上高は835百万円（前年同期比3.1%増）となり、コロナ前（2020年3月期）を上回る。

営業損失は4百万円と、第1Qとしては上場以来最少の損失幅となった。

最終利益についても1百万円の黒字化を達成し、好調なスタート。

	2020年3月期 第1四半期 （参考・コロナ前）		2023年3月期 第1四半期		2024年3月期 第1四半期		前年同期比 (%)
	実績 （百万円）	構成比 (%)	実績 （百万円）	構成比 (%)	実績 （百万円）	構成比 (%)	
売上高	803	100.0	809	100.0	835 ①	100.0	+25 (+3.1%)
売上原価	280	34.8	294	36.4	275	33.0	-19 (-6.5%)
売上総利益	523	65.1	514	63.6	559	67.0	+44 (+8.6%)
販売管理費	594	73.9	528	65.3	563	67.5	+35 (+6.6%)
営業利益	△71	-	△13	-	△4 ②	-	+9
経常利益	△70		△13		△5		+8
特別利益	-		10		1		-8
特別損失	-		13		-		-13
親会社株主に帰属する当期純利益	△63		△12		1		+13

① コロナ前及び前年を上回る

② 第1Qでは、上場以来最少の営業損失

連結業績について

営業損失4百万円となったものの、上場以来最少の赤字幅。コロナ禍の取組が奏功し、損益分岐点が低下し、収益体質が着実に改善していることを確認。

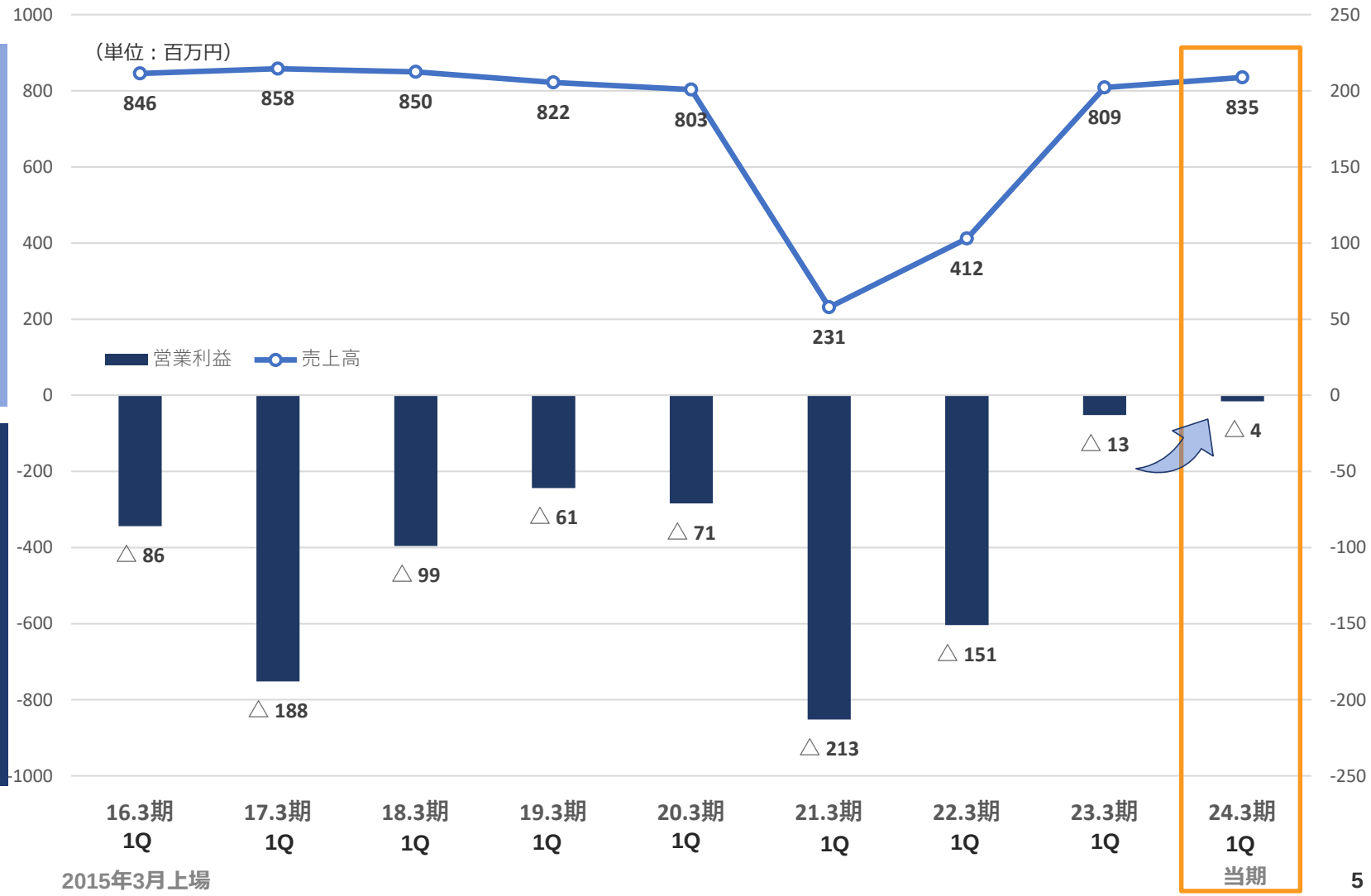
売上高

8.35 億円

営業利益

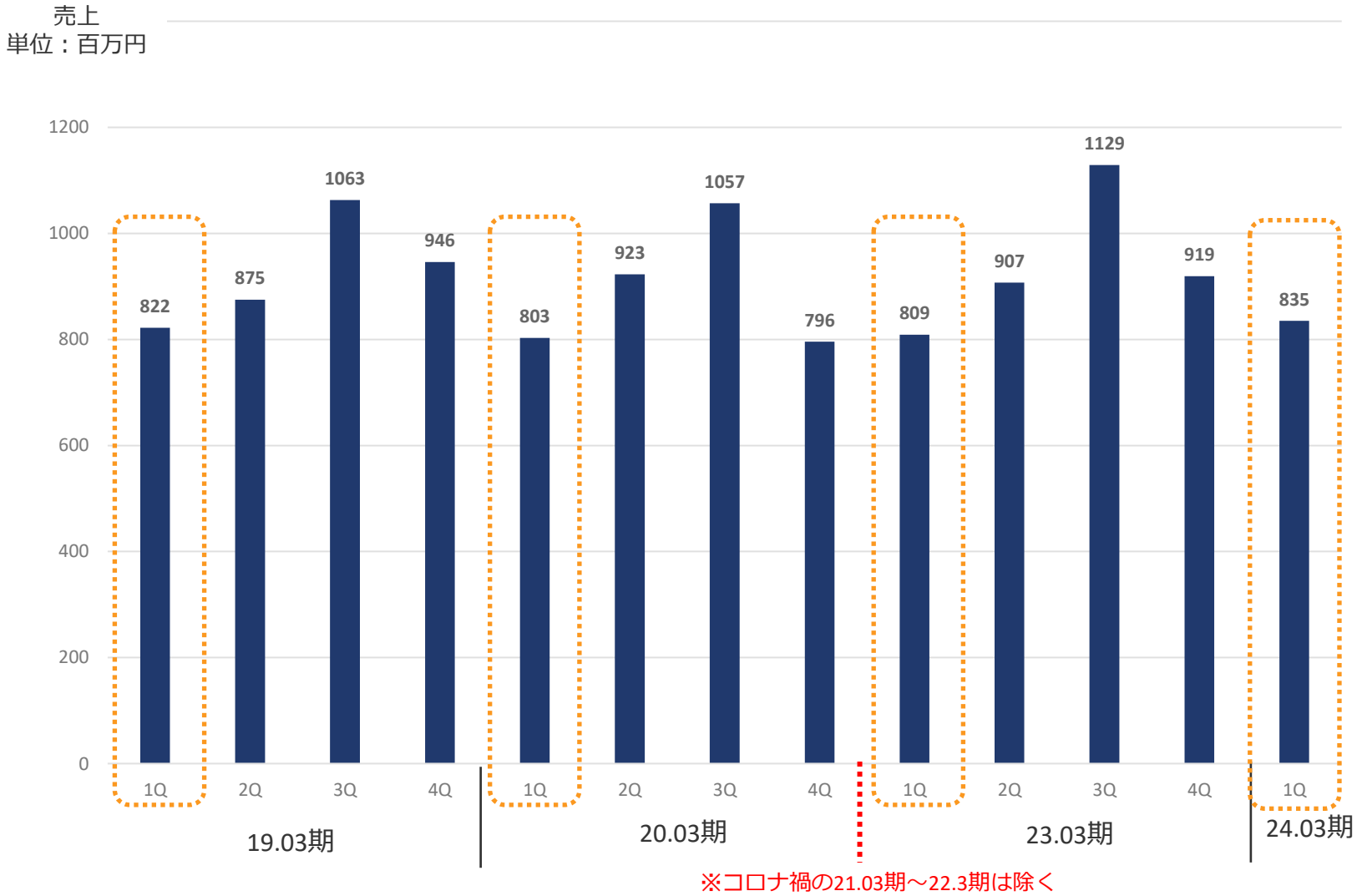
△4 百万円

上場以来過去最少



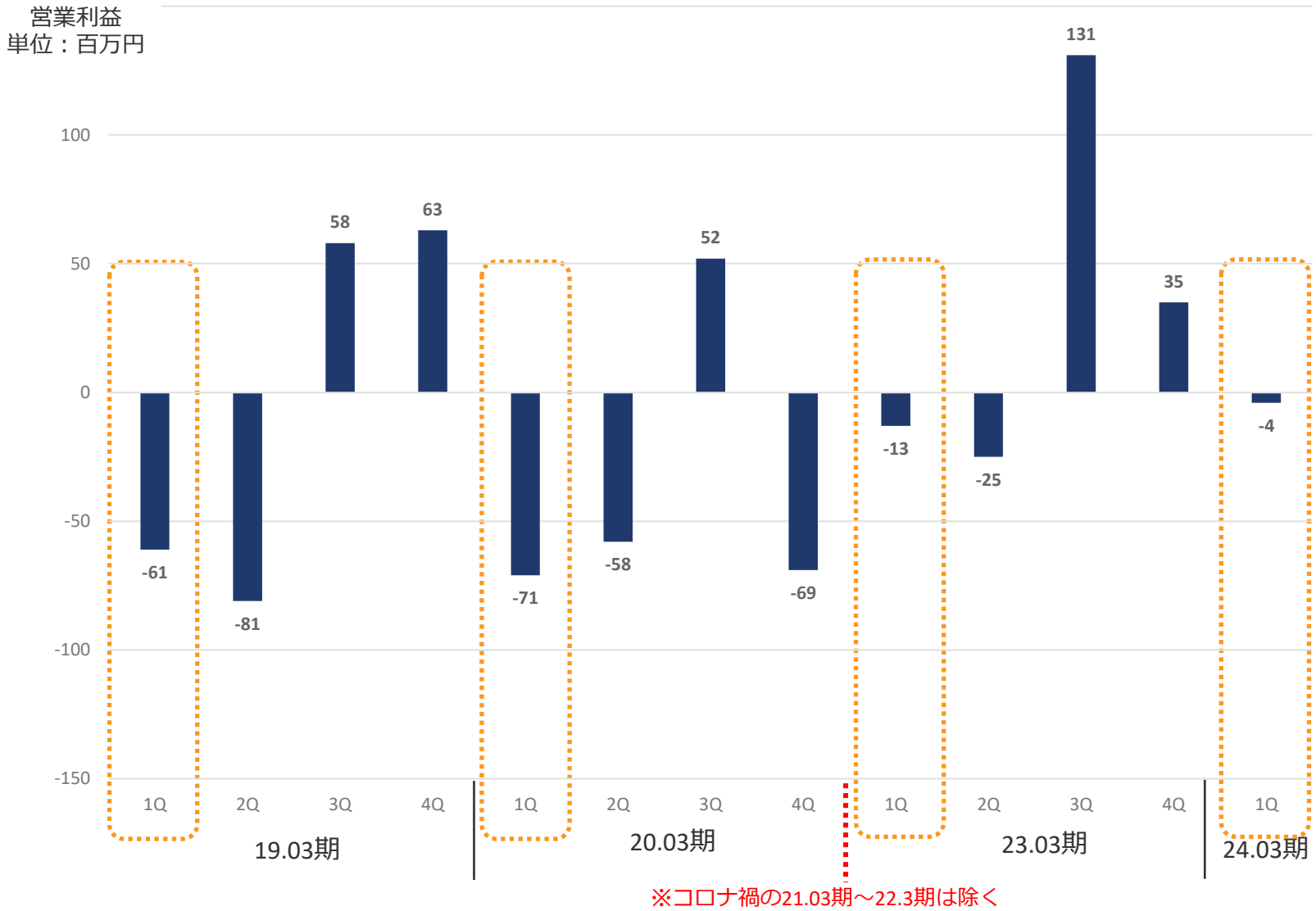
売上の季節変動推移（四半期）

牡蠣に対する消費者の認識上、冬場に売上が偏重する傾向にあるため、第1Qは、年間で売上が一番少ない時期となり、今後2Q~4Qと売上拡大を例年通り着実に図ってまいります。



営業利益の季節変動推移（四半期）

牡蠣に対する消費者の認識上、冬場に売上が偏重する傾向にあるため、第1Qは、年間で売上が一番少ない時期となり、営業赤字の傾向が続いていましたが、コロナ禍の取り組みにより、損益分岐点が下がり、第1Qでも損失幅の縮小が進み、順調に改善。今期は2Q～4Qの売上が上がってくる時期に合わせ、営業利益の更なる拡大を図ってまいります。



貸借対照表概要

2024年3月期第1四半期末の総資産は22億円、前期末に対して1億円の減少。

自己資本は10億円、自己資本比率は45.0%を確保。引き続き、収益力を高め、財務基盤の強化を図る。

（百万円）	2023年3月期 期末	2024年3月期 第1四半期		2023年3月期 期末	2024年3月期 第1四半期
資産の部			**負債の部**		
流動資産	1,592	1,429	流動負債	526	447
現金及び預金	1,334	1,166	買掛金	102	97
売掛金	195	181	短期借入金*1	67	67
原材料	39	45	その他	357	283
未収入金	10	10	固定負債	845	811
その他	14	27	長期借入金	454	438
固定資産	798	848	その他	391	373
有形固定資産	531	587	負債合計	1,371	1,258
無形固定資産	-	-	**純資産の部**		
投資その他資産	267	261	株主資本	1,020	1,024
敷金及び保証金	244	253	その他	△2	△6
繰延税金資産	23	7	純資産合計	1,018	1,018
資産合計	2,390	2,277	負債純資産合計	2,390	2,277

*1．1年内返済予定の長期借入金を含む

セグメント別業績概況

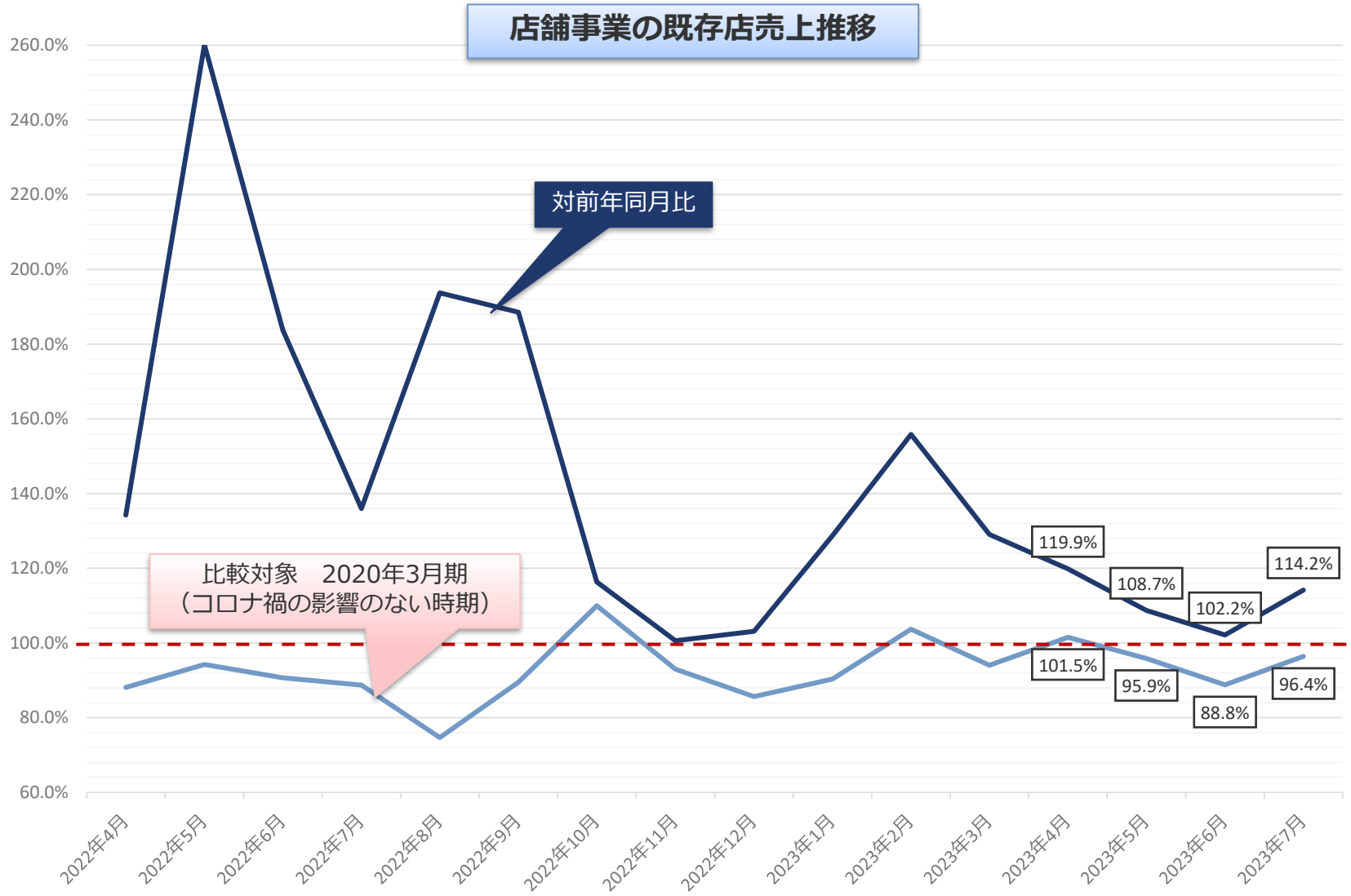
「店舗事業」「卸売事業」はいずれも前期と比較して、増収増益で好調なスタート。

「加工事業」については受託事業の一時的な受注が減少し、前期に比べ損失幅が拡大。

	（百万円）	2023年3月期 第一四半期	2024年3月期 第一四半期	前年同期比（%）	ポイント
店舗事業 オイスターバーレストランでの飲食サービス	売上高	659	728	+10.5	新型コロナウイルス感染症の収束により、売上も好調に推移。セグメント利益22.6%向上。
	営業利益	60	73	+22.6	
卸売事業 生牡蠣や牡蠣の加工品の外販卸売り	売上高	70	88	+24.8	取引先も順調に拡大し、売上高も過去最高を達成。セグメント利益48.4%向上。
	営業利益	18	27	+48.4	
加工事業 岩手・大槌工場	売上高	65	5	-91.1	受託事業の受注が減少した影響により、セグメント利益は△21百万円の赤字
	営業利益	△7	△21	―	
その他 EC通販、海外卸売	売上高	16	18	+15.9	EC通販と海外卸売の売上は堅調に推移
	営業利益	0	4	+846.4	
調整額	売上高	△1	△5		
	営業利益	△85	△89		
連結財務諸表計上額	売上高	809	835	+3.1	
	営業利益	△13	△4		

【店舗事業】 既存店売上高 （前年比、コロナ前比）

新型コロナウイルス感染症の収束により、売上高は堅調に推移。

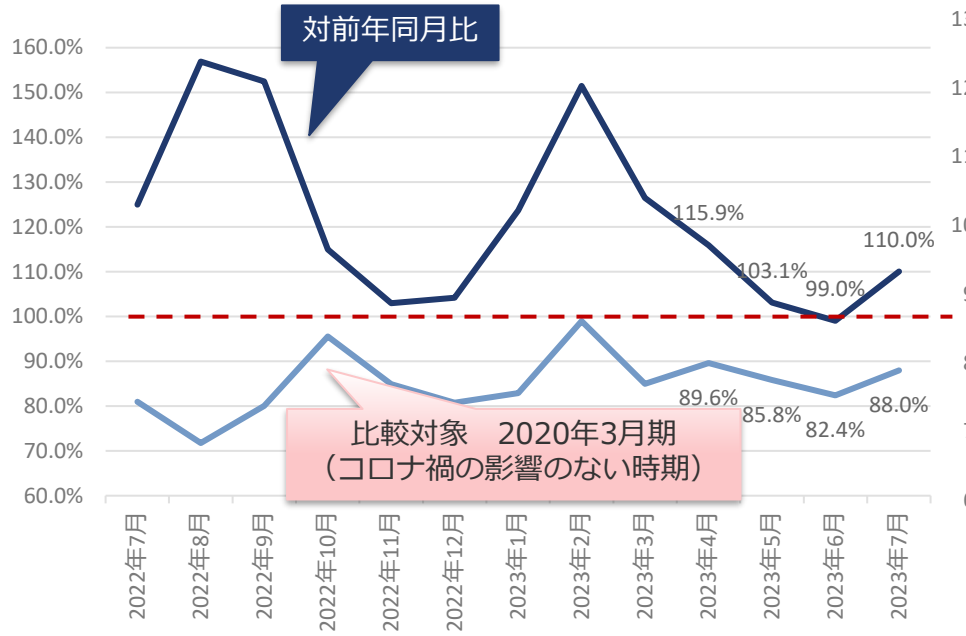


【店舗事業】 既存店客数・客単価（前年比、コロナ前比）

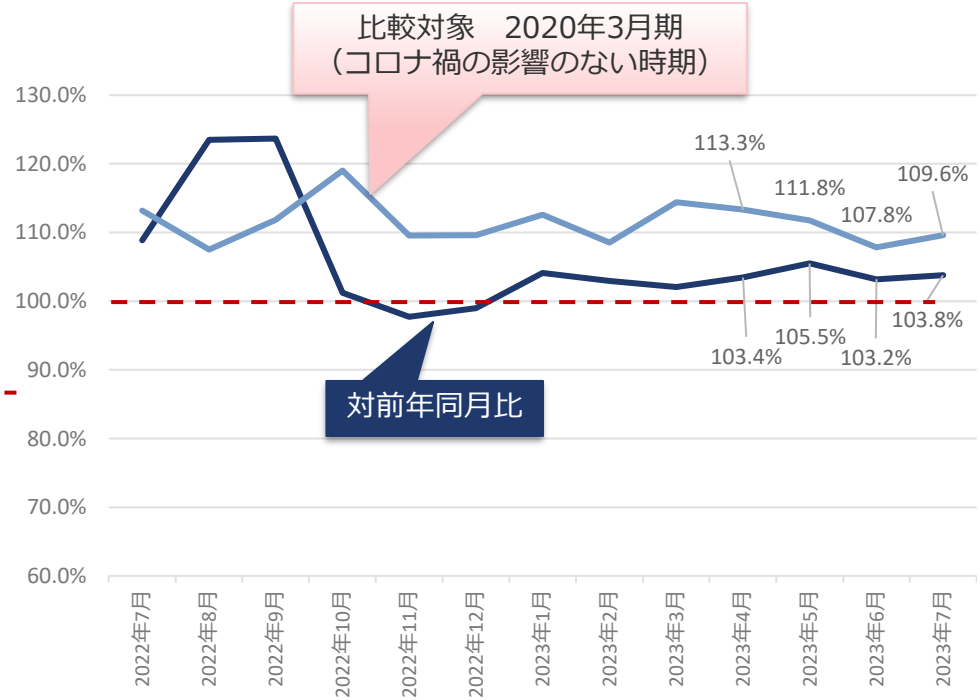
General Oyster

客数は前年比で、堅調に推移推移。一方、客単価は10%超の増加（コロナ前比）が断続的に継続しており、高付加価値戦略が定着化。

客数の推移



客単価の推移



2. 今後の取り組みについて

2024年3月期の経営戦略の見込み

コロナ禍に臨機応変に対応しつつ、再成長へ向けた取り組み

方針	重点施策	進捗状況	活動計画
『守りの取り組み』	コストコントロールの徹底	◎	引き続き、推進
再成長に向けた『攻めの取り組み』	「EC通販の強化」など販売チャネルの多角化	◎	引き続き、売上伸長を推進
	店舗事業の収益拡大	◎	少ない売上でも利益を出せる筋肉質なコスト構造への転換が完了。今後も更なる定着化を進める。
	国内卸売事業の収益拡大	◎	２桁成長を維持し、更なる高利益体質に。
	海外輸出事業の収益拡大	△	資本業務提携先の阪和興業と共に、海外市場（特に、アジア、中東）の開拓を進める
	加工事業による収益貢献	△	稼働の改善を進める。
	店舗事業のITを活用しての効率化	○	引き続き、推進
	陸上養殖のアタラナイ牡蠣のローンチ	◎	実証実験が終わり、量産化の検討を加速。

3. 2024年3月期 業績見通しについて

通期業績の見通しについて

General Oyster

2023年5月15日開示の通期業績予測に関しては、現時点で変更なし。
筋肉質なコスト構造の定着と、「守り」から「攻め」へグループ全体で質の向上を図り、次なるステージへ向け進化させていく。

（百万円）	2023年3月期 通期実績	2024年3月期 連結業績予想	前年同期比 （%）
売上高	3,764	3,896	+132 (+3.5%)
営業利益	127	130	+3 (+2.2%)
経常利益	128	128	-0 (-0.5%)
親会社株主に帰属する当期純利益	138	124	-14 (-10.2%)

General Oyster

本資料に記載されている予測、見通し、戦略およびその他歴史的事実ではないものは、当グループが資料作成時点で入手可能な情報を基としており、その情報の正確性を保証するものではありません。これらは経済環境、経営環境の変動などにより、予想と大きく異なる可能性があります。